

SUN だんぱんと。

みんなの元気な笑顔と
 広野の豊かな自然が
 わたしのエネルギー



地域ボランティアグループ
 「ほのぼのの広野」相談役

甲藤 和子 さん
 Kazuko Katto 広沢

ラジオ・ハニーFMでもっと詳しく聴けます！【6/21 15時10分～】

「小さい頃から人の世話をするのが好き。考えるより先に体が動くんです」優しい表情ながら精神的な一面をのぞかせるのは甲藤和子さん。「広野には昭和64年から暮らしています。昔から住んでいる人も多く、隣近所のつながりを大事にしている。豊かな自然にも囲まれている。ここで暮らしているうちにボランティアがしたいという力が湧いてきました」広野地区にもボランティアグループを——

「自然体でいられたからこそ、ここまで長く続けてこられたのかな」と甲藤さんは振り返る。「どこに行ってもすぐにお友達ができるんです」ボランティア以外のつながりも大事にしてきた。「近所の子どもたちにおはよう！と声をかけると、笑顔で駆け寄ってくれて。学校から帰ると楽しそうにいろいろなことを話してくれるんです。先日は、お手紙までくれました」と甲藤さんは微笑む。

「そう声をかけると「地域のために何かやろう！」熱い想いを持った19人が集まり、平成15年にグループを設立した。当初は、お金も経験もなかった。だからこそメンバー同士で何でも話し合って決めるということを大事にしてきた。

「来年で設立20年を迎えるほのぼのの広野。「新しい人を育てない」とね」設立当初から続けてきた代表を退き、現在は相談役として次世代にバトンを繋ぐことに力を注ぐ。「自分たちの地域を自慢できる元気な広野であってほしい」と「ほのぼのの広野」の志をこれからもつないでいく。

活動は、高齢者の話し相手、毎月開催する「ほのぼのカフェ」、子どもたちの見守り、広野地区のイベント支援など多岐にわたる。「無我夢中で毎日を過ごしてきました。どんなに忙しくてもしんどいと思わなかったのは、みんなの元気な笑顔が見たいから」ボランティアをしてあげているのではなく、させていたでいるという気持ち。日々の活動こそが自分のエネルギーになっていると話す。

「今日はどんなことがあったの?」といつも優しく聞いてくれます。あやとびが52回出来たとき、甲藤さんに知らせたくてお手紙を書きました。家族以外でも気にかけてくれる甲藤さんの存在はとても心強いです。いつも見守っていてくれてありがとう！

「自分たちのできる範囲でやろう」ということ。「あれもこれもしなきゃと気負うのではなく、いつも



■ 甲藤さんと毎日のように交流がある
 おかざき ゆいか
 岡崎 結香さん(右)